

minato

2024.07 No.

77

| 新潟臨港病院・新潟万代病院 | 地域医療福祉連携機関向け広報誌『みなど』

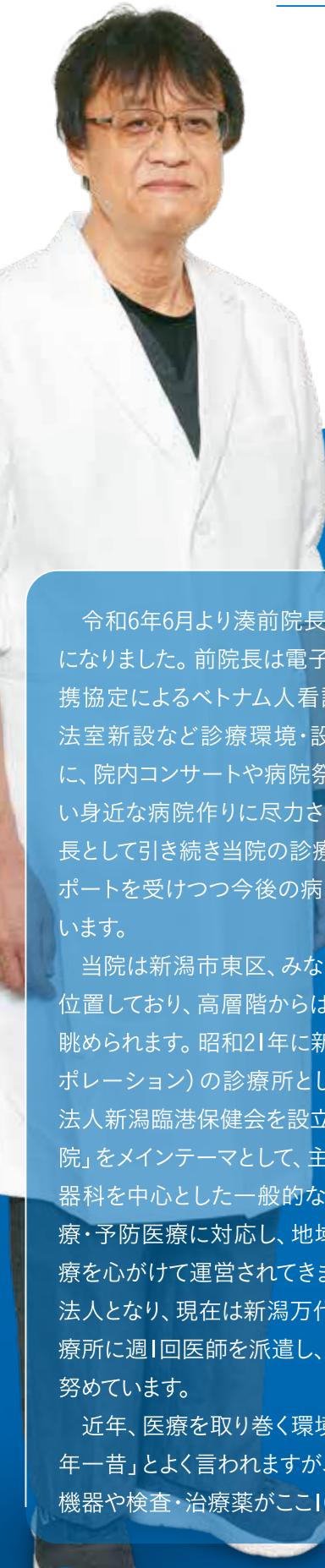


Take Free
(ご自由に
お持ちください)

私たち新潟臨港保健会は、医療を通じて
地域の皆様が安心して安全に暮らせる社会づくりに貢献します

社会医療法人 新潟臨港保健会

チャンス・チャレンジ・チェンジ!!



新潟臨港保健会(新潟臨港病院・新潟万代病院)をご利用いただいている患者様やご家族の皆様に向け、2005年より広報誌みなどを年4回発行しております。過去をたどること約20年、医療情報を中心に、病気のケア・予防法や、医師やスタッフの一面など、私たち新潟臨港保健会をより身近に感じていただける情報発信に努めてまいりました。77号を迎えた今、地域医療の深刻な現状に向き合うべく、「病気を治す」医療から「地域で暮らしを支える」医療へ、地域ぐるみで住民の健康を支える拠点として地域包括の実現を目指しています。

新潟臨港病院 院長 鈴木 裕

令和6年6月より湊前院長の後任として院長を務めることになりました。前院長は電子カルテシステム導入や、経済連携協定によるベトナム人看護師候補者受入、外来化学療法室新設など診療環境・設備の更新を進められるとともに、院内コンサートや病院祭開催など患者様に親しみやすい身近な病院作りに尽力されてこられました。今後も理事長として引き続き当院の診療・経営に参加されますので、サポートを受けつつ今後の病院の舵取りをして参りたいと思います。

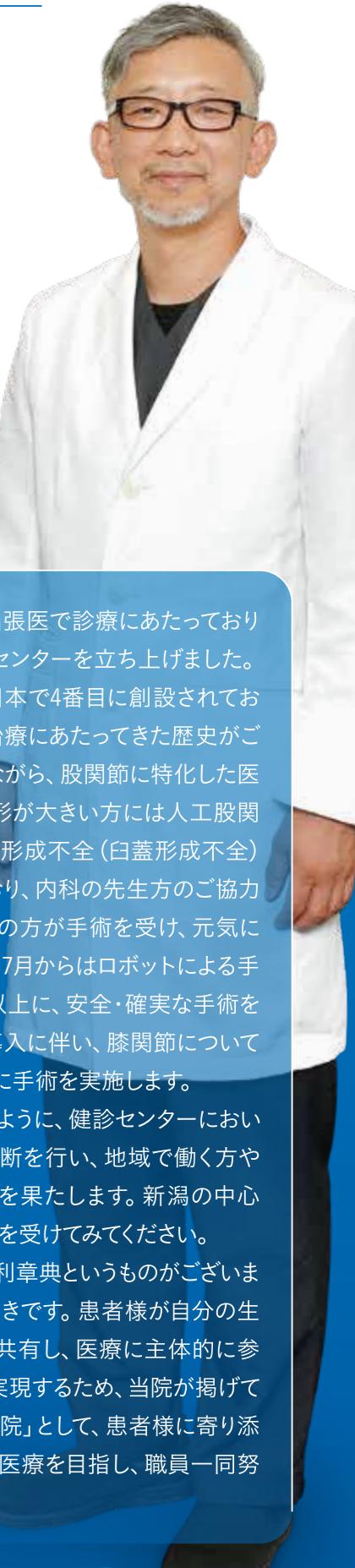
当院は新潟市東区、みなとトンネル山の下側入口近くに位置しており、高層階からは新潟西港に出入りする船舶が眺められます。昭和21年に新潟臨港開発(現・リンクコーポレーション)の診療所として開設され、昭和26年に医療法人新潟臨港保健会を設立し、当地で「地域に貢献する病院」をメインテーマとして、主に内科・外科・整形外科・泌尿器科を中心とした一般的な急性期医療や、生活習慣病治療・予防医療に対応し、地域の皆様に信頼されるような医療を心がけて運営されてきました。平成26年には社会医療法人となり、現在は新潟万代病院と協力して阿賀町鹿瀬診療所に週1回医師を派遣し、へき地医療にも貢献できるよう努めています。

近年、医療を取り巻く環境は急速に変化しています。「十年一昔」とよく言われますが、医療技術の面では診断・治療機器や検査・治療薬がここ10年～20年で飛躍的に進歩し、

「高度化・専門化」がより一層進んでいます。一方で人口の高齢化も急速に進んでおり、複数の疾患有する高齢の患者様に対しては、高度化・専門化した医療を提供することのみにとらわれず、個々の患者様の尊厳を尊重した人間の生き方に着目し最適な、全人的な医療・ケアを提供することが重要視されています。当院は196床の中小病院で診療科もすべてを網羅している訳ではありません。また、最近では医師を含めた医療関係者の勤務環境を改善することも求められており、当院で提供可能な医療には人的・時間的な面からも限界があり、すべての患者様のあらゆるニーズに対応することは難しいことも事実です。しかし、当然のことではありますが、地域の病院としてはまずは患者様の窓口となり個々の患者様の病状や環境を丁寧に把握し、看護師やリハビリテーション技師をはじめとしたコメディカルスタッフとともに患者様の生活の質を考慮した最適な医療の提供を、また、対応困難な場合は高次医療機関や専門医療機関との連携を通して最善な医療の提供を行えるような病院を、患者様に教えながら患者様とともに育んでいきたいと思います。至らない点などもあるかもしれません、その際は遠慮なくご意見をお聞かせください。また、中小規模の病院ではありますが肛門疾患や睡眠障害の診断・治療などの得意分野もあります。「山椒は小粒でもびりりと辛い」特徴のある病院となれるよう職員一同努力して参りますので、今後もご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

そこで、コミュニティ全体の力を地域医療福祉連携機関の皆様と一緒に高めていくよう、広報誌みなどが架け橋となり、より当院を便利に、最大限にご活用いただけるような広報誌としてリニューアルします。

本号より、これまでご愛読くださいました方々と、さらに、新潟市医師会地域医療連携事業登録医および賛同医(準登録医)の皆様へ向けた情報を発信してまいります。今後も変わらぬご愛読をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



新潟万代病院 院長 宮坂 大

2024年6月1日より新潟万代病院の院長に就任いたしました、宮坂大です。

前任の堂前洋一郎院長の後を継ぎ、この素晴らしい病院で患者様と地域社会に貢献できることを心より喜ばしく思っております。何とぞ宜しくお願いいたします。

また、堂前洋一郎前院長は、当法人である社会医療法人新潟臨港保健会の副理事長として、引き続き法人および新潟万代病院の発展に尽力されることとなりました。そのご尽力により、地域の医療サービスが一層向上することを期待しております。

当院の歴史は古く、1944年に通信省(のちの郵政省)の職域病院として、新潟通信病院が古町に設立されました。1964年の新潟地震の影響で、1966年には現在の場所に新病院を移転しました。1982年には一般住民の方の受診も可能となり地域に根ざした病院として再出発し、1997年に現在の病院を建設しております。2015年には現法人である新潟臨港病院保健会に経営が譲渡され、名称を新潟万代病院に改称して10年目を迎えます。

新潟万代病院は52床の小さな病院ですが、利点としては職員全員の顔が見え、風通しの良いアットホームな環境を提供できることです。新潟一の交通の利便性を生かし、新潟大学や同法人の新潟臨港病院の協力を経て、日中を中心にして急性期医療も担っております。整形外科・糖尿病/内分泌科・循環器内科・消化器内科の常勤医があり、乳腺外

科・婦人科は主に大学からの出張医で診療にあたっております。2018年7月には関節再建センターを立ち上げました。新潟大学の整形外科教室は日本で4番目に創設されており、股関節手術の創成期から治療にあたってきた歴史がございます。この伝統を引き継ぎながら、股関節に特化した医療を提供しております。主に変形が大きい方には人工股関節を、若く変形の少ない寛骨臼形成不全(臼蓋形成不全)の方には臼蓋移動術を行っており、内科の先生方のご協力のもと、現在までに1500名以上の方が手術を受け、元気になっておられます。そして2024年7月からはロボットによる手術も開始いたします。これまで以上に、安全・確実な手術を行うことが可能です。ロボット導入に伴い、膝関節についても新潟大学と連携して、積極的に手術を実施します。

創設期からの理念にありますように、健診センターにおいても、人間ドックや定期健康診断を行い、地域で働く方や住民の方々の健康を守る役目を果たします。新潟の中心地、新潟万代病院で楽しく健診を受けてみてください。

最後に、当法人には、患者権利章典というものがございます。医療は患者様中心であるべきです。患者様が自分の生命や健康に関わる医療情報を共有し、医療に主体的に参加できる患者様本位の医療を実現するため、当院が掲げております、「地域に信頼される病院」として、患者様に寄り添い、安心安全で思いやりのある医療を目指し、職員一同努力していく所存です。

CHANCE / CHALLENGE / CHANGE

地域包括ケアシステム インタビュー特集

第1弾

地域医療を 共に作る!



2024年6月1日、社会医療法人新潟臨港保健会の幹部メンバーが交代し、新体制へと生まれ変わりました。今後ますます新潟の地域医療に貢献するべく、理事長、副理事長、新潟臨港病院院長、新潟万代病院院長の4名が、決意新たにそれぞれの想いを語ります。

——今回の新体制への移行の目的を教えてください。

湊 私は新潟臨港病院の院長を長く務めて、まずは世代交代をという思いがありました。そして地域医療構想や医師の働き方改革の議論が進んでいる時期もあり、次のステージに進むタイミングだと感じました。

——新潟臨港保健会はどのように変わっていきますか。

湊 病院それぞれの特徴をより打ち出していきたいです。新潟臨港病院は睡眠時無呼吸症候群のケアに特化した「睡眠センター」が特徴的です。新潟万代病院は整形外科に強みがあり、「関節再建センター」を運営しています。今年から手術をサポートするロボットアームシステムを導入しました。

——堂前副理事長はどのような想いですか。

堂前 私は新潟万代病院院長の仕事を宮坂先生にバトンタッチし、湊理事長を補佐しながら新潟臨港保健会をもっと広く知りたいとするよう積極的にアピールしていこうと考えています。これからの時代の病院は、独自の方向性を持つべき。5年先、10年先の病院の存続や発展を考えると、今回の組織改革は必要なものだったと考えています。

——両院長の決意を聞かせてください。



充実に力を入れています。今後は書類のやり取りなどの負担を軽減し、効率化を進めていきたいですね。

宮坂 新潟万代病院は、急性期病院で治療した患者さんを受け入れていますが、オンラインで入退院調整ができるクラウドサービス「CAREBOOK(ケアブック)」の活用が始まっています。急性期の病院が「このような患者さんを転院させてください」と発信すると、私たちのような回復期の病院が手を挙げ、すぐに相談・調整を進めることができます。昨年秋頃から運用をスタートし、多くの患者さんの転院を受け入れ、

治療後は地域にお返ししています。

堂前 地域に返すといつても、自宅に帰るか介護施設に入るかという選択もありますよね。また、病院側が「この患者さんはもう医療を施さなくて大丈夫」と判断しても、介護施設が「この患者さんにはまだ医療が必要」と考え、それが生じるケースもあります。私たちの病院はMSW(医療ソーシャルワーカー)が頑張ってくれているので介護施設との連携は比較的スムーズですが、医療の認識の違いは今後の課題だと思います。

——「minato」の読者にメッセージをお願いします。

湊 新潟臨港病院、新潟万代病院ともに地域の皆さんに必要とされる病院であり続けようと奮闘しています。また社会医療法人新潟臨港保健会としては、べき地医療に取り組み、阿賀町の鹿瀬診療所の応援を10年以上続けていますので、こちらもしっかりと継続していきます。

堂前 限りある医療資源をどう上手く使うか。皆さんには、適切な病院のかかり方や救急車の呼び方などを勉強していただきたいです。医療保険制度の存続にも関わることなので、ぜひ自分ごととして考えていただきたいと思います。

鈴木 私たちの病院の受け入れ分野に関しては、優秀なスタッフが揃っているのでぜひ頼ってください。そして医療従事者は患者さんから学ぶことがあります。学ばせていただいたことを還元する、そんな医療を提供していきたいと思います。

宮坂 高齢化が進む中、運動器である足は一生の宝。自分で歩いて生活できることは本当に大事です。その手助けとなる医療を提供しますので、ぜひ気軽に受診してください。

——より良い地域医療連携のために、現場ではどんなことをしていますか?

鈴木 地域医療連携に関する業務を担う「地域連携室」の

阿賀町へき地診療12年目を迎えました



社会医療法人新潟臨港保健会は、2013年度より新潟県内山間地域における「へき地医療支援」を開始して、阿賀町鹿瀬診療所での医療支援は今年度で12年目を迎えます。

今年4月には当法人の湊理事長が神田一秋町長へ表敬訪問を行い、今後の地域医療の展望について対談させていただきました。遠出の難しい患者様が地元阿賀町の診療所で安心して受診していただけよう、今後も継続して医療支援を行っていく所存です。

社会医療法人の認可

2013年度より開始した「へき地医療支援」ですが、2014年9月1日にはその診療実績が認められ、社会医療法人の認可を受けました。

社会医療法人は数ある医療法人の中でも特に公益性の高い法人とされています。「地域への貢献」が当法人の目標であり、社会医療法人としての使命であると決意を持って診療にあたっています。

診療の体制

現在は湊理事長をはじめ整形外科医師が診療所へ赴き現地で診療を行っています。診療放射線技師や理学療法士も同行してレントゲン撮影やリハビリを実施するなど、チームとして医療支援を継続しています。



【県内初】手術用ロボット『Mako(メイコー)』の導入

新潟万代病院ではこのたび、日本で初めて承認された整形外科におけるロボティックアーム手術支援システム「Makoシステム」を導入し、2024年7月1日から、人工股関節全置換および人工膝関節全置換の手術を保険診療で行うことになりました。同システムの導入は新潟県では当院が初となります。

ロボティックアームとは、一般に「人の手の代わりに作業を行う機械の腕（アーム）」のこと、自動で動くものや人が操作して動かすものなどがあります。このたび当院で導入したロボティックアームは、術中に医師が操作をして動かすもので、人工関節を設置する際に傷んだ骨を削るために使われます。ロボティックアームは、治療計画にない部位にさしかかると止まる仕組みになっており、計画外の動きを制御することで、安全かつ正確な手術を可能にします。



これまでの研究において、ロボティックアームを用いて人工関節全置換術を行うと、人工関節の設置精度の向上が認められ、さらに人工股関節全置換術では術後の脱臼率の低減、人工膝関節全置換術では疼痛の低減などのメリットが期待できるとの結果が出ています。

変形性股関節症や変形性膝関節症などで悩む患者さんが、人工関節全置換手術後、健康的な生活を送っていただけるよう、新潟万代病院では今後積極的にロボティックアームを用いた手術を行ってまいります。



ロボティックアームを使用した人工関節全置換術とは

術前計画

手術前に治療計画をたてます。CT検査を行い、患者さんの骨格の情報をコンピューターに入力し、人工関節のサイズや設置する位置、骨を切除する位置や量・骨を削る深さや角度などを決定します。

術中調整

人工股関節置換術 (THA)

手術中は、脚の長さや、関節が安定する適切な人工関節の位置をリアルタイムにコンピューター画面で確認し、調整します。

人工膝関節置換術 (TKA)

手術中は、膝関節の変形（O脚やX脚など）を矯正し、関節が安定する適切な人工関節の位置をリアルタイムにコンピューター画面で確認し、調整します。

ロボティックアーム支援

医師はロボティックアームを持ち、その先端に取り付けられた器具をナビゲーションに従って操作し、骨を切除したり削ったりします。このとき、治療計画から外れた角度や深さで骨の切除や骨を削ろうとしようとすると、自動的にロックがかかり動きを制御します。これにより、治療計画通りの安全かつ正確なインプラントの設置を支援します。

THA

ロボティックアームで骨盤（臼蓋）の表面を整える



TKA

ロボティックアームで骨の表面を削ります



連携登録医の紹介

地域を支える
医療・福祉施設を
ご紹介します

私がお話を聞きました！

- ・ 地域医療連携を意識した切れ目のない支援を



CLINIC No.
01

岡田内科医院

内科

院長 岡田 雅美



当院は1961年に開院し、何かあつたらまず相談できる医療「町のお医者さん」として地域に密着した診療を行っています。親子代々、家族背景を知り得た患者様が多く、専門分野に限らずあらゆる疾患に対応しています。特に病状や服用している薬等を納得できるまで説明することを大切にしており、かかりつけ医の大重要な役割と捉えています。

新潟臨港病院との連携は、精査や入院が必要な状況など、いざという時にスムーズに受け入れてもらえるため大変頼りにしています。在宅療養の患者様が増えているなか、他の診療所とバランスをとり、当院は扉を開けていつでも相談できる診療所としての役割を担っていきたいと考えております。お気軽にご相談いただけたらと思います。



〒950-0055
新潟市東区北葉町10-5
TEL: 025-273-2708
FAX: 025-271-3467
診療時間… 9:00~12:30
15:00~18:00
休 診 日… 土曜午後・水曜・
日曜・祝日・第5土曜

新潟臨港病院インスタグラム



アイングループ

株式会社ダイチク

所在地：〒950-1151 新潟市中央区湖南24-2
電話番号：025-288-0228（代表）

オフィシャルウェブサイト www.ainj.co.jp

CLINIC No.
02

はやみ整形外科クリニック

整形外科・リハビリテーション科

院長 速水 正



当院は、患者様の痛みや不安を和らげ、少しでも明るい気持ちでクリニックを後にしてもらえるように、それぞれに合った最善の治療を目指しております。

骨粗鬆症、関節疾患、スポーツ障害等に対応し、治療においては薬物治療だけに頼らず、患者様にも積極的に参加してもらうリハビリに力を入れています。

ただ整形外科疾患には保存療法で症状がよくならない疾患もあり、連携病院での手術を勧める判断も地域医療を担う当院の重要な役割と考えています。その点でも、新潟万代病院とはスムーズに連携させていただき大変助かっています。

スタッフ一丸となって患者様に寄り添い、誠実で安全な医療の提供にあたっていきたいと思います。



〒950-1214
新潟市南区上下諏訪木922-2
TEL: 025-378-5151
FAX: 025-378-5151
診療時間… 8:45~12:00
14:45~17:45
休 診 日… 木曜午後・土曜午後・
日曜・祝日

発行日／令和6年(2024年)7月25日
発行人／理事長 梁泉
編集／法人本部企画管理係(新潟臨港病院内)

【新潟臨港病院】
〒950-8725 新潟市東区桃山町1丁目114番地3
<https://ngt-rinkohc.jp/rinko/> TEL 025-274-5331(代表)



【新潟万代病院】
〒950-884 新潟市中央区八千代2丁目2-8
<https://ngt-rinkohc.jp/bandai/> TEL 025-244-4700(代表)



新潟万代病院エックス



公式アプリ「いつでもアイン薬局」から、
処方箋を送信できます！
今すぐアプリをダウンロード！

Google Play、
App Storeで

いつでもアイン薬局 を検索



Android OS
バージョン6.0以上



iOS
バージョン12.0以上

社会医療法人新潟臨港保健会
広報誌「みなど」No.77